

未来に伝えよう 緑のムラ竜谷

竜谷学区

RYUGAI



3世代が楽しく暮らす町

竜谷学区は3世代と一緒に暮らす大家族がいっぱい。
100歳になってもゲートボールを楽しむ元気な高齢者もいます。
小学校では高齢者の方々とふれあう機会を設け、いろいろなことを教えてもらっています。



100歳のゲートボール、きぬさん

みんなで給食

学校給食をおじいちゃんとおばあちゃんと一緒に味わいます。昔の給食の話の聞いたり、「牛乳よりもお茶がほしいなあ」という声が出たり、楽しいひとときを過ごします。



みんなで食べるとおいしいな

手をあわせて、いただきま〜す!

足場はしっかり固定するんだよ



昔のおもちゃで遊ぼう

3つの老人ホーム

愛厚ホームで行われた劇団チャチャチャの公演



竜谷学区には特養「愛厚ホーム岡崎苑」、特養「くわがいがい」、老健「ヴィラ葵」の3つの施設があります。施設では学区主催の演劇やコンサート、盆踊りなどを行い、学区民も参加して交流を深めています。



特養「くわがいがい」で披露された二胡の演奏

老人クラブ竜寿会の皆さんを講師に迎え、小学校でふれあい体験を行っています。当日は保護者の方も参加し、3世代が一緒に活動します。布ぞうりや竹とんぼ、竹馬などのおもちゃを手作りし、みんなで遊びます。



布ぞうりを編むのは難しいな

学区のまちものがたり作成を通して、子どもの頃と比べて交通や日々の暮らしなど大きく変わったことに改めて気づかされました。龍ヶ谷踊唄が復活したように、親から子へ、子から孫へと竜谷の自然や伝統を伝えていき、楽しく暮らせる町であり続けたいと願っています。

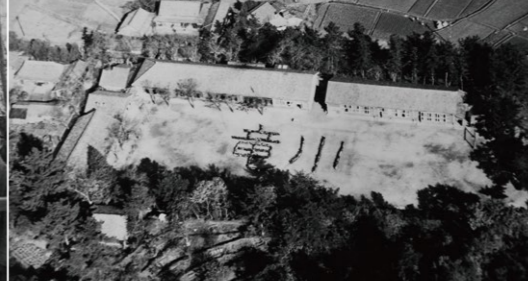
〔作成委員会〕 青山一幸/稲吉均/蔵地良光/山本信夫/小島寛史/比嘉貴治/本田洋介/山本信行/清水淳吉/富澤義隆/太田道雄/久永時男/新實孝雄/長坂正行/鈴木博士

〔参考資料〕 村史龍谷/竜谷小百年誌/おかげさ東海風土記/おかげさのむかしばなし/岡崎・史跡と文化めぐり

〔表紙写真〕 竜泉寺川の桜並木の前で地元の人たちが集合(2016年4月撮影)



竜谷学区は水利の便が悪く、多くの溜池が築かれ、今でも利用されている。龍谷池は学区内最大規模



旧竜谷小学校の全景。跡地には市民ホームとこどもの家が建つ



新設された桑谷―美合間を走る名鉄のボンネットバス。当時のバス代は15円



日吉神社参道横に市営住宅桑谷荘が120戸完成



合宿や同窓会などに利用された桑谷山荘。30種類3000株のアジサイが見られる花の名所でもあった



子どもたちの設計図をもとに作られた「ピオ竜谷」。カワバタモロコやメダカ、水草のアサザを保護・育成している

竜谷学区のなりたち

- 一八八九年 ■ 明治 22
- 一九〇三年 ■ 明治 36
- 一九一六年 ■ 大正 5
- 一九二〇年 ■ 大正 9
- 一九三一年 ■ 昭和 6
- 一九三四年 ■ 昭和 9
- 一九五五年 ■ 昭和 30
- 一九五八年 ■ 昭和 33
- 一九六〇年 ■ 昭和 35
- 一九七〇年 ■ 昭和 45
- 一九七一年 ■ 昭和 46
- 一九七三年 ■ 昭和 48
- 一九七四年 ■ 昭和 49
- 一九七五年 ■ 昭和 50
- 一九七六年 ■ 昭和 51
- 二〇〇二年 ■ 平成 14
- 二〇一五年 ■ 平成 27

桑谷村と龍泉寺村が合併し、龍谷村が誕生

桑谷尋常小学校と龍城尋常小学校が合併し、龍谷尋常小学校が創立

岡崎市制施行

龍谷村電気購買組合設立、翌年に電燈点灯

龍ヶ谷踊唄完成

龍谷池竣工：1

額田郡龍谷村が岡崎市に合併

市立竜谷小学校と改称：2

名鉄バス桑谷線開通（桑谷―美合間）：3

農協有線放送施設完成

市営住宅「桑谷荘」（宮ノ入住宅）完成：4

国民宿舎桑谷山荘オープン（平成24年12月に閉館）：5

竜谷保育園開園

松本古窯跡が岡崎市史跡に指定

特別養護老人ホーム「愛厚ホーム岡崎苑」開設

竜谷小学校が竜泉寺町松本に新築移転

圃場整備事業、竜泉寺川改修完了

竜谷小学校が全日本学校関係緑化コンクール

学校環境緑化の部で文部大臣賞・

日本放送協会会長賞受賞

竜谷小学校創立百周年記念

「ピオ竜谷」完成：6



昭和63年の竜谷学区。蛇行する竜泉寺川や用水路、水田が整備された



山の斜面を切り開いて新しい竜谷小学校が誕生。広い校庭と緑豊かな自然に囲まれている



電気購買組合の設立を記念して、昭和6年に電気組合碑が建てられました



名鉄バス桑谷線の開通を喜ぶ子どもたち



ピオ竜谷のそばで給食。青空の下で食べるとおいしい！



ピオ竜谷で生き物や植物を観察

「ピオ竜谷」はここにありませ

DATA

人口	2,953人
男性	1,425人
女性	1,528人
世帯数	1,205世帯
面積	9.66km ²

[2016年7月1日現在]

竜谷ってどんな学区？

岡崎市の南東部に位置する竜谷学区は南を蒲郡市、西を幸田町と接し、桑谷山から流れる竜泉寺川に沿って集落が点々と続く細長い学区です。学区は2つの町から成り立っています。昔あった七堂伽藍の寺名からとった竜泉寺町と、養蚕に必要な餌になる桑の木が連なっていた桑谷町です。小さな学区ですが神社は多く、家康の父広忠を祀った広忠寺、大久保彦左衛門の菩提寺である長福寺などがあります。

自然いっぱい竜谷学区

竜谷学区は標高435.6mの桑谷山を中心に、天目山や観音山に囲まれた自然豊かな地域です。竜泉寺川の堤防沿いには約百本のサクラが咲き、サクラが散るとゲンジボタルが飛び交います。暑さが過ぎる頃には田んぼや道路沿いに植えたヒガンバナが花を咲かせ、農村風景を明るくしてくれます。

生き物もたくさん棲んでいます。春はウグイスがさえずり、夏はヒグラシが涼しげに鳴き、秋は桑谷山の山頂でタカの渡りが見られます。谷川の小石を動かせば小さなサワガニも姿を見せてくれます。里山には山菜や果実が実り、ワラビ採りやムベ狩りなども楽しめます。

竜谷小学校では緑化活動が盛んです。「学校に緑を」をテーマに緑豊かな環境を整え、平成11年の全日本学校関係緑化コンクールでは日本一に輝きました。校内には竜泉寺川をイメージしたビオトープ「ピオ竜谷」もあり、貴重な淡水魚のカワバタモロコなどが飼育されています。これからは地域全体で豊かな自然のある農村風景を守っていききたいです。



アケビ科の一種、ムベ。ほんのり甘い



畦道や川沿いに咲くヒガンバナ

「リュウガイ」か「リュウガヤ」か

竜谷はリュウガイと読みますが、リュウガヤと呼ぶ人もいます。昭和6年に作られた「龍ヶ谷踊唄」はリュウガヤと読むので、岡崎市に合併する以前はリュウガヤと呼ぶ人のほうが多かったかもしれません。同様に桑谷も「クワガイ」と読みますが、「クワガヤ」とも呼ばれています。どちらの呼び方も故郷への愛着が込められています。

ようこそ、竜谷学区へ

竜谷学区は自然豊かな町。春はお花見、夏はキャンプや桑谷山ハイキング、秋には鷹の渡りをはじめとするバードウォッチングなど、見る＆遊べるスポットがたくさんあります。街道沿いには、お地藏さまや道標が立ち、道行く人を見守っています。お地藏さまとの出会いを楽しみながら、町を散策してみませんか。



竜谷学区はお地藏さまにたくさん出会えます

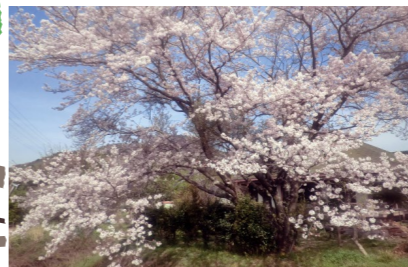


竜泉寺町の辻に立つ子安地藏



桑谷町の野辺地藏

旧桑谷山荘 (Old Sangay Yama no Shubo)



願心寺の桜

見頃：3月下旬



竜泉寺川の桜並木

見頃：3月下旬



アジサイ

見頃：6月中旬～7月初旬



竜泉寺川のゲンジボタル

見頃：6月中旬～7月初旬



椿ロード

見頃：12月



F 桑谷キャンプ場
桑谷山の遊歩道入口にある市営キャンプ場。現役の手押しポンプが2基あり、冷たい井戸水が使えます。使用料・駐車場は無料。開設期間は3月1日から11月30日まで



G ブルーベリーファームおかざき
休耕田に1300本の苗木を並べた観光農園。6月～8月末まではブルーベリー狩りが楽しめます。ジャムやジュース、パフェやかき氷などのデザートも販売しています



H 竜泉寺川
かつては天然プールとして子どもたちの格好の遊び場でした。河川改修後はここで泳ぐことはなくなりましたが、近年は水質が向上し、カワムツやオイカワなどの魚が戻ってきました



松本古窯跡

竜泉寺町と桑谷町の境、標高約87mの丘陵地に築かれた窯穴跡。山茶碗、皿、壺などの無釉陶器が出土されました



龍泉寺

龍が住む泉のそばに建てられたという言い伝えから名付けられた古刹。かつては七堂伽藍のある大寺院でした



大久保彦左衛門の墓

江戸時代、大久保家が竜泉寺町の一部の領主になっていたため、大久保家代々の墓が祀られています



柄栗塚 (からくりづか)

直径7m、高さ約1mの石垣に囲まれた円形の塚。小豆坂合戦の戦死者や武具が埋葬されています

M 実相寺の昔話「かんのんさんの午の舌」

馬頭観音を本尊として祀っている実相寺には数多くの昔話が伝わっています。その一つが「かんのんさんと午の舌」。信心深い村人と経典を背中に乗せた馬がはるばる京都から寺を目指しますが、途中の急坂で馬が立ち止まってしまいます。村人が一心に経文を唱えると白髪の老人が現われ、馬の舌の形をした餅を与えます。すると馬はたちまち元気を取り戻し、寺に辿りついたとのこと。この話にちなんだ法要が年の暮れの午の日に行われています。参拝客にはご飯を平らにした「午の舌」が授与され、これを食べると無病息災で過ごせるといわれています。



△午の舌の法要



△手作りの「午の舌」

未来に伝えよう「竜谷音頭」



昭和の初め、村おこしのために「龍ヶ谷踊唄」が誕生しました。当時の龍谷村村長が稲の神様といわれる岡崎市中国町出身の岩槻三三(信治)氏に作詞・作曲・振り付けを依頼し、竜谷の自然風景や名所旧跡などを歌詞に盛り込みました。ゆったりとしたリズムのこの踊り唄は戦前戦後にかけて地元の人たちに親しまれました。しかし、次第に忘れ去られ、踊りを覚えていた人も少なくなりました。そこで、当時のテープをもとに、地元の軽音楽バンド「ヒマナシスターズ」が現代風にアレンジし、踊りグループ「竜舞会」が振り付けを再現。新たに「竜谷音頭」と名付けられ、平成27年に披露されました。故郷に愛着を持ってほしい、未来の子どもたちに伝えたいことが歌詞に詰まっています。



竜谷小学校の子どもたちも参加



ヒマナシスターズのみなさん

大久保様



徳川3代に仕えた大久保彦左衛門の菩提寺、長福寺。寺の南側には大久保家の墓が3基あります。

広い境内は緑に囲まれ、静かなたたずまい



山を背に静かに立つ
広忠寺



広忠寺

永禄5年(1562)に開山した家康の父、松平広忠ゆかりの寺。家康の異母弟の頼新を住職に迎え、父広忠のために家康が建立したと伝わっています。境内には広忠のほか、家康の兄、忠政の墓があります。

桑谷山

桑谷山はハイキングに人気の山です。山頂付近には国民宿舎桑谷山荘もあり、大勢の人に利用されました。平成24年12月に惜しまれながら閉館し、山荘は撤去されましたが、展望台は今も健在で三河湾が一望できます。秋には夕力の渡りが観察できます。



展望台より蒲郡・三河湾・渥美半島を望む

茸狩



祭りの貴重な財源だった松茸

昭和30年頃まで松茸が豊富に採れました。その量は松茸の入札金で神社の秋祭りが行えるほど！残念ながら松の木が枯れてしまった今は松茸を見ることがなくなり、忘れられない思い出です。

宮太鼓



太鼓の音を合図に、秋祭りの神輿が出発。余興には決まって芝居が演じられました。昭和3年の御大典奉祝では桑谷町の日吉神社、竜泉寺町の神明宮で村芝居が行われ、村中が賑わいました。



村芝居の役者たち

竜谷音頭

龍ヶ谷踊りはしなよいおどり
女子供も出ておどる

村の自慢の大久保様よ
今も菩提の鐘が鳴る

霞まとうて綿帽子かぶり
いきな姿よ桑谷山

こぶし振りあげかわいや蕨
山のよこつら春の風

青葉しげれば広忠寺に
昼もなくかやほととぎす

風はどこから三丈ヶ滝の
暑さしらずの溪間から

山が色ずきや田面も黄ばむ
どんと鳴るのは宮太鼓

日和続けばせわしや秋は
今日も茸狩つくみ狩

続く豊年気もあたたかに
眺めましょぞえ雪景色

まめで働らきや暮しも伸びて
うれし龍ヶ谷年の暮

三丈ヶ滝



桑谷山の登山名所



滝の入口の看板

桑谷山の林道から約200m南に上ると、三段に連なる岩壁を水が流れ落ちていきます。昔は滝の下で水遊びもできたそうです。

COLUMN 竜谷の俳句

竜谷学区では古くから農村の大衆文化として伝わる狂俳と俳句が親しまれてきました。明治33年、龍谷村で生まれた鈴木煙浪は、岡崎の俳人鶴田卓池の研究家で、句誌「三河」の主筆として多くの門人を育てたことでも知られています。今も竜泉寺俳句会、竜谷小学校児童によって、その活動は続いています。

- 二 竜泉寺俳句会
- 二 桜咲き村人集ふ酒宴かな
- 橋に消え橋より現るる螢かな
- コンバイン稲穂を全て飲み込めり
- 村人が櫓を焚きおる除夜の寺
- 二 竜谷小学校児童
- 金次郎頭の上に木の実落つ
- 赤とんぼ運動場を独占す
- ビオトープ水面にゆれる秋の空
- 展望台周りを囲む秋の山

竜泉寺川の桜並木の下に
句碑があります